

参加者

浅田、石川、市川、伊東、岡部、
北島、神前、正武家、鈴木、中島、
松田、町田、安田、遊佐、吉野、
ゲスト、梅沢、二部、

BMW RS Club

かわらばん

一泊ツーリング特集

Oct 12~13, '96

白河一猪苗代一磐梯山
そして相馬市の松川浦へ

秋風がますます深く濃く青空を染め上げる頃です。秋冷とでも呼びたいような、そんな中に広がる紅葉の美しさを見ると、暑い夏に耐えた後だけに、感慨もひとしおといった感じで、そんな秋を求めての一泊ツーリングを迎え、気になるのはお天気のことばかり。

去年はホッテントットの神様にまで頼んだのに、翌日はまさかの雨に見舞われました。そこで今年はクリスチャンのカミさんを教会に行かせ、縫いぐるみの首に紐を付けて、特大のテルテル坊主を作り、更に鬼子母神から安産の神様、そしてアラーの神からマヤの精霊、はてまたインカ帝国の太陽神インチにいたるまで、地に伏し天を仰いでお願いしました。予報ではズ〜ト前から当日は曇りのち雨。翌日は曇りとのこと託宣でしたが、どうせ当たらないと、ふてくされていたものの、内心では困ったと思っていました。

さて当日となり、ソット外を覗くと東の空が明るいではありませんか。高校生のはやり言葉で言うところの“チョベリグー”（ちょうべりぐー）です。

混み合う首都高速で、集合地の蓮田SFに向かうと、集まり具合は至って悪く、2〜3人の仲間に電話を入れたほどでした。結局は一人だけ現れず、合計14台で8時半の出発となり、又々RSタイムです。後になってこの30分が効いてくるのです。泊まりとあって各々がバッグを付けて、些か重そうに見えましたが、走り始めるとアットいう間に消え去りました。いつものようにシングルで走っていると、オヤ誰かが止まっています。鈴木さんです。ガス欠かと思ってホースを出そうとすると、なんと作りたてのメガネを飛ばしたとか。そりゃダメだと小生。ところが執念とは恐ろしいもので、ついに拾って来ました。驚いたことに、その先にも誰かがいて、よく見るとなんと、散々に待っていた正武家さんではありませんか。朝からいろいろな事が起こり、先が心配になって来ました。これで計15台。

第一休憩地の上河内SFに着き、ズラ〜りとバイクを並べて記念撮影をすることになりました。ワイドレンズを付け、階段の上の方で構えていると、そこへメットから髪の毛をたらしした女の子がバイクで飛び込んで来ました。“日光への別れ道で待ち合わせたのですが、もっと先ですか？”とのトボケタ質問ですが、かわいい女の子とあって、みんなの親切なことといったらなく、なかなか写真が撮れません。“ボクが送ってあげるよ”と言わないだけマシでした。

白河まですっ飛ばして高速を降りると、道路沿いにトウカエデが見事に色づいています。R294で勢至峠のトンネルをくぐり猪苗代湖へ向かいました。途中の田甫に沿って走ると、黄菊とマリーゴールドが道端に咲き、そのすぐ先には秋桜(コスモ)が見事に咲き乱れていました。ご機嫌で走っていると、対向車からのネズミ取りを知らせるサイン。15台もの大型バイクがゆっくりゾロゾロと走られては、田舎のポリ公も邪魔らしくて、「早く行け」と手を振られました。が、“バカヤロ〜江戸っ子がお芋につかまるか〜”とでも言いたい気分でした。やがて猪苗代湖が見えて来ました。この湖は海辺のように所処に浜が有り、何か湖というより海を見ている気分させられます。遥かに山々が霞みススキがなびき、とても幻想的でした。

ここで昼飯時間となりました。夜が豪勢な筈だから、昼飯はラーメンか何かで簡単にと思っていました。が、以前にクラブで使ったことの有る、湖畔のイタリア・レストランに入りました。パスタでも食べて済ます筈が、近ごろイタリアから帰った北島さんが“イタリアでは2時間ぐらいかけて昼飯を食うのが当たり前だよ”とコース料理を頼みワインを飲み始めたから、さあ〜大変です。呑兵衛が人の飲むのを見て、黙ってられる訳はなく、終わって見たら赤ワインの大瓶が5本も空き、ビール瓶は林立で、すっかり盛り上がり過ぎてしまいました。結局は2時間も昼に使い、これが後になって響いて来るとは、誰も思いもしませんでした。

磐梯吾妻レークラインに向かって山を上ると、カエデ、うるし、ヌルデ、ハゼ等が見事な真紅に、そしてメグスリノキがサーモンピンクを濃くしたような、何とも言えない秋色の美しさに染まり、左下の方には松原湖の湖面が輝いています。レークラインに入り、暫く走って谷底を覗くと、岩を噛んで流れが走り、その周りはクリスマスの包装紙を張り巡らしたような、そんな華麗さで、あ〜とても私の拙い(つた)表現力では書き表すことは出来ません。